



報道陣が注目する中、稲の生育状況などを入念に審査するグリナズ・ウカソヴァさん

「試練に立ち向かい 汗を流す日々」

ギネス世界記録挑戦への壁

ギネス世界記録を目指した田植えイベントも無事終了し、上々の滑り出しを見せた今年の田んぼアート。誰もが天候に恵まれ、順調に稲が成長していくことを願っていました。しかし、今年も試練が襲いかかりました。田植えイベントから2日後の6月16日に大雨が降り、2日間稲が水没するというトラブルが発生。さらに7月16日には台



大雨により水没した稲の様子

風の影響で田んぼが浸水し、再び稲がダメージを受けてしまいました。

ギネス世界記録挑戦への意地

ギネス世界記録挑戦に暗雲が立ち込める中、協議会のメンバーは連日アートの補修作業を行いました。特に「ゆきあそび」という品種の白い稲が大きくな被害を受けたことから、重点的にその稲が植えられていた男の子や女の子の顔、「はやぶさ2」に予備の稲を補植したり、肥料を与えたり、雑草を取り除くなどの手入れを続けました。その努力が実り、8月下旬にはアートが復活。「稲の生育状況も十分。地面が見えているところもない」という判断のもと、自信を持って5年越し2度目のギネス世界記録へ挑戦することを決めたのです。

稲の育成技術を農家に伝えるなど、田んぼアートの制作に欠かすことができないキーマン



新井良彦さん(埼玉県加須農林振興センター農業支援部技術普及担当部長)

炎天下での補修作業は、体力的に非常につらかったです。中学時代の部活動を思い出しましたよ。二度の大雨による稲の水没でギネス世界記録が達成できるかどうか、私は正直分かりませんでした。しかし、使命感を持って作業を行う市の職員と一緒に汗を流したことは、自分にとっていい思い出です。「こんなにやったのだから、どうかギネス世界記録に認定されてほしい」。そんな気持ちで作業をしていました。



炎天下の中、市職員も連日稲の修復作業を行いました。大雨による水没、猛烈な暑さなど幾多の困難を協議会一丸となって乗り越えたことから、8月下旬には稲が回復。中には穂が出ているものもありました。

緊張の審査が開始

9月8日、運命の日がやってきました。「ギネス世界記録達成なるか」。このことはテレビ局をはじめ各報道機関も注目する話題となりました。

雨が降る中、ギネス世界記録公式認定員のグリナズ・ウカソヴァさんが審査会場である古代蓮会館に到着。そして、午前10時過ぎに審査が始まり、実際に田んぼに足を運んで稲の生育状況や古代蓮会館展望室から全景などを入念にチェックしました。予定時間を大幅に超えての審査に、協議会の小林三三会長は「認定審査に最初から最後まで立会いましたが、公式認定員の確かかつ冷静な質問に終始圧倒され、喉はカラカラ、背中には冷や汗が吹き出していました」と振り返ります。



上の写真：ギネス世界記録の認定証を授与され、喜びの表情を浮かべる工藤市長

左の写真：ギネス世界記録達成の発表を受け、くす玉を割り喜びを爆発させる関係者の皆さん

「ついに訪れた歓喜の瞬間」

ついにギネス世界記録達成!!

歓喜の瞬間が訪れたのは、正午過ぎでした。グリナズ・ウカソヴァさんから「田んぼアートは条件を満たし、見事新たなギネス世界記録達成となりました」と発表されると、会場は大きな拍手と歓声に包み込まれました。公式記録は2万7千195平方メートル。「最大の田ん

ぼアート (Largest rice field mosaic)」よりも長い長年の目標であったギネス世界記録に認定されたのでした。

工藤市長は「今回で2度目のチャレンジでした。本当によかったです。世界一となった作品を多くの方に楽しんでもらえるようおもてなしの心でお迎えしたい」とコメント。その他の関係者からも「本当によかったです。感激のあまり涙を流す方もいました。」

田んぼアートの見頃は10月中旬まで

最大の田んぼアート (Largest rice field mosaic) は、稲刈りが行われる10月中旬までが見頃となります。日ごとに表情を変える最高傑作を、ぜひこの秋に古代蓮会館展望室から堪能してみたいいかがですか。※古代蓮会館は10月4日(日)まで入館料が半額(大人200円、小人100円)になります。なお、この期間は無休で営業します。

喜びの声

小山さん：このときを迎えるまで田んぼの管理が大変でした。前回認定されなかった分、今回は余計にうれしいです。
野口さん：みんなで勝ち取ったギネス世界記録です。来年はプレッシャーを感じますが、これでさらに仲間との絆が深まり、いい作品ができると思います。



左：小山雅夫さん(埼玉)
右：野口智章さん(小針)
共に田んぼアート米づくり体験事業推進協議会員